



十二支の由来

ある時、神様が動物たちを集めて「お正月の朝早く来たものから12番目の者をその年の干支にする」と言いました。猫はうっかりしていたのでネズミに尋ねました。ネズミはわざと約束の次の日を教えました。ネズミが牛のところに行くと牛は、「歩くのがゆっくりだから、早く出かけるよ」と言うのでネズミはさかさず牛の背中に乗りました。

朝になり、神様の門の前まで来るとネズミは牛の背中から飛び降りて、「私が一番!」と名乗りました。そして、牛が2番です。次々にトラ、ウサギ、タツ、ヘビ、ウマ、ヒツジ、サル、トリ、イヌ、イノシシと干支をつけてもらいました。

次の日に行った猫は、誰もいないのであわてて門番に尋ねると「顔を洗って出直して来い」といわれました。猫が良く顔を洗うしぐさをするようになり、ネズミを追いかけるのはこのときからだそうです。

成人の日 1月9日

大人になったことを自覚し、自ら生きぬこうとする青年を祝い、励ます日で、昭和23年に制定され、平成12年(2000年)から1月の第二月曜日に定められました。民法では、“満二十歳ヲ以ツテ成人トス”とあり、法律上独立の社会人としての地位を与えられます。

わが国では古くから成人を祝うしきたりがあり、男性は元服、女性は裳着といました。

まだまだ成人には年月がかかる子どもたちですが、夢と希望を持って成人できるよう、私たち大人が毎日明るく、前向きな姿を見せていきたいものです。

消さないで
あなたの心の
注意の火



広島市南消防署
警防課 救助係



平成29年

1月の園だより



「感謝の心」

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。

この一年が子どもたちにとって、また保護者の皆様方にとって良い年でありますことを心より念じ申し上げます。

さて、冒頭から少し硬い話しになりますが、妊活中あるいは育児休業中で下のお子さんの入園を検討されての方もいらっしゃると思いますので、広島市の子どもを取り巻く環境について少し触れたいと思います。

広島市では、昨年10月1日現在の保育所入所待機児童数が432人と前年同時期より173人も増えています。日本は世界に類を見ない人口減少時代に突入していますが、幸いにも広島市の人口推移は微増

(人口総数は約119万7千人)しており、合計特殊出生率(1人の女性が一生のうちに生む平均子ども数)も1.51と全国平均の1.45を上回っています。しかし、出生数は約1万800人と微減になってきています。昨今、保育園の受入枠を驚くほどの勢いで拡大しても待機児童が発生するのは保育を必要とする児童の割合が40%を超える勢いで伸びているからです。今後は生む母親の人数が減少してきますので少子化は急速に加速していきます。待機児童問題も近い将来解消されると思いますが、このまま少子化が続けば、あっという間に経済・福祉・教育は維持できなくなってしまいますので大変深刻な問題です。出生数を上げるためには、いつでも預けることができる保育園整備はもちろんですが、安心して生み育てられる環境を社会が一体となってつくっていかねばならないと考えています。ぜひ、皆さんのお知恵もお聞かせください。

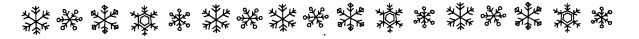
話しが変わりますが、子どもを取り巻く環境を考えるにあたり、「感謝」という心を忘れ、「当たり前」という気持ちが社会全体にまん延していることをとても危惧しています。

ひと昔前では、「ありがとう!」「有り難い」といった言葉が口癖のごく当たり前に出ていたと思います。誰に対しても自然にそうした言葉を発していました。ところが、世界一安全と言われたわが国も悲惨な事件が続くマンションの隣室に誰が住んでいる

かもわからないのが当たり前になってきた昨今、子どもたちには知らない人に声をかけられたらその場からすぐに立ち去るよう行き過ぎた指導がなされています。今や人とかかわりを拒否する風潮さえ生まれてきました。そうした中、毎日の生活の中で様々なことがいつの間にか当たり前になってきました。生命があって当たり前。健康でいて当たり前が最たる例です。しかし、当たり前でなくなってはじめてその有り難さを知ることになるのだらうと思いますが、有り難さや「感謝の心」を忘れることで何か大切なものを失っているということを我々大人が再認識しなければ、子どもたちの未来は、日本の将来は一体どうなってしまうのかとても心配しているところです。

人間は、日常生活の中にあるたくさんの有り難いことを「慣れ」「驕り」でつい忘れてしまいがちです。私自身、老いや病気を身近に感じる年齢になって、当たり前ではなくすべての人、ものに感謝しなければならないという気持ちにあらためて気づかされたところです。

みみょうの保育理念のひとつに、「感謝」が掲げられています。これは、みみょうの創設者である松尾ズが「仏さまに素直に手を合わせる子を育てたい」という思いをもって、大正13年にみみょう幼稚園を創設しましたが、以来ずっと大切にしてきた理念です。「感謝」という気持ちは、ありがたいと思うからこそ自然と湧き出てくる気持ちで、自分が幸せと感じたり好きでないとそんな気持ちになれないと思います。つまり、「感謝の心」を育てるには、「自己肯定感」を育むことことに他なりません。小さいうちから「かわいがり」、「認めてやり」、いいところをよく見て本気で「ほめて」育てることが大切です。そうすれば子どもも自ずと自信につながり、自分が好きという「自己肯定感」も生まれます。そうすると自然と「感謝」という気持ちももてるようになると思います。以前、ご紹介したと思いますが、作家の五木寛之さんが「患者の話を書く、ほめる、手を添える。」これが名医だとおっしゃられていたと記憶しています。まさに子育ても同様であり「しっかりと話を聞き、努力の過程をほめ、スキンシップする。」まさにこれに尽きると思います。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



お話を聞く
心の声も聞く



ママに何か話そうと、一生懸命な子どもの言葉。さえぎらずにゆっくり聞きましょね。さみしい気持ち、悲しい気持ち、怒りや不満も「そうなの、かなしかったね」「さみしかったね」とまづは全部受け入れます。すると、子どものモヤモヤは消えていきますよ。

大和書房「子育てでいちばん大切なこと
児童精神科医 佐々木正美 著

とんど祭り



小正月の行事で、正月の松飾り、しめ縄、書初めなどを、長い竹、萱、藁などを組んだものに飾り付け、燃やすという、日本全国に伝わるお正月行事です。また、残り火で餅や、団子を焼いて食べると、その一年元気で過ごせるといういわれがあります。

今年も、東雲本町公園で9日(月)に行われます。

ご家族で、お正月の伝統行事に触れてみてはいかがでしょうか。